

【解答にあたって】

訳す部分の内容を把握するのはあたりまえですが、今回の設問のように、翻訳部分以外の原文が掲載されている場合には、できるかぎり全文を読み通しましょう。全体の内容や文体などを把握した上で、翻訳の方針を決めて取り組んだほうが、より適切な訳ができます。

問題例1は、ベテランの医師が人の死というものを見つめる話です。ノンフィクションですが、「I」という主人公の立場で書かれていて、その主人公が医学生だったころ（一九五〇年代）の衝撃的な体験を振り返ってゆきます。

「I」の年齢や立場、知性にふさわしく、全体に理知的で落ち着いた感じで、無駄のない端正な文章で綴られていますね。舞台が病院なので当然、専門用語も出てきますが、一般の人が十分読める内容です。訳文も、原文に相当する文体や文のレベルを想定すればよいでしょう。難解な文章はありませんから、誤訳の心配は少ないので、医学用語をていねいに調べて正確に訳す時間も十分あるでしょう。

【訳出のポイント】

- ① 固有名詞は McCarty だけで、癖のない名前ですから簡単なはず。「マカーティ」あるいは「マッカーティ」あたりが妥当でしょう。
- ② "In the ten minutes..." は心電図をとる準備が整うまでの時間で、一分とありますが、もちろんそれはおよそのことです。
- ③ "wheel the electrocardiogram machine down the hall" となっているので、どこかにあった、おそらくキャスト付きの心電計を押して廊下を進み、"emergency room" に運び込んでマカーティに取りつけたのでしょう。
- ④ "had begun" と "had reverted" に完了形が使われているのは、前述の一分のあとではなく、その間にそれが起きたからです。
- ⑤ "he" や "the patient" はもちろんマカーティのことですから、機械的に「彼」「患者」と訳さず、名前を出す場合があってもよいでしょう。誰を指しているのか明瞭かどうか、そして、日本語として自然かどうか、そのまま訳すかそれとも別の言葉に置き換えるかの判断基準になります。
- ⑥ "The electrocardiographic tracing ...revealed" の文は、「心電図は～を明らかにした」のように直訳すると不自然ですから、「心電図から～がわかった」のように発想を変えて訳すとよいでしょう。
- ⑦ ダッシュ以下は、現代の読者に当時の実情を知らせるための補足説明です。一九五〇年代には、心臓病の集中治療室はまだなかったのですね。
- ⑧ "His private physician" は、マカーティがふだん診てもらっていた医師でしょう。ですから、舞台となっている病院の医師であるかのような印象を与えないようにしなければいけません。
- ⑨ "reassured himself" は、その医師がほっとしたわけです。

【翻訳例】

救急処置室で研修医が診察したとき、マカーティは血の気がなく汗まみれで、脈が乱れていた。廊下の奥から心電計を運んできて取りつけるのに一分ほどかかり、その間にマカーティは具合が良くなってきたようで、乱れていた脈も正常に戻っていた。とはいえ、心電図から、梗塞を起こしていたことがわかった。ごく一部だが心臓の壁が損傷している。容態が落ち着いたようなので、上階の病室に移す準備が整えられた。一九五〇年代には、心臓病の集中治療室はまだなかったのだ。マカーティのかかりつけの開業医が病院に駆けつけ、自分の患者がもう落ち着き、危機を脱した様子なので胸を撫で下ろした。